第108期株主通信

2019年4月1日―2020年3月31日

証券コード 3580

komatsu mateRe

創造し続ける「化学素材メーカー」へ。
小松マテーレは、世界を舞台に成長します。

日頃の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。この度、小松マテーレ株式会社の代表取締役社長に就任しました佐々木 久衛と申します。今般、コロナウイルス禍で社会や世界経済が混乱する中で、過度に偏った流通・サプライチェーンの脆弱性や対面方式に頼ったビジネスのやり方や働き方について、問題を突きつけられています。当社は新たなリスクへの対応のみならず、さらに技術開発力を磨き、社会・時代の新たな要求に応えるソリューション事業を取り込むとともに、事業環境変化に耐える強靭な企業体質の強化に取り組みます。今後も、経営陣と社員が一丸となって、皆様のご期待にかなうよう、事業に邁進してまいります。引き続き、株主の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2020年6月
代表取締役社長 佐々木 久衛

Q1　新社長はわが国の繊維産業をどのように見ていますでしょうか。

佐々木：日本の繊維産業は早い時期から中国・東南アジアに進出し、国際分業が定着していますが、2000年以降、技術移転に加え製造設備の進歩も加わり、生産固有技術は一般化し、技術力の格差は縮小しています。また、中国を中心とした海外企業は豊富なキャッシュフローを背景に積極的な最新設備導入を進め規模を拡大し、グローバル市場への供給力やコスト面では太刀打ちができない状況になっているのが現状です。

日本企業は海外との厳然としたコスト差から、感性・機能を備えた高付加価値商品を小ロット・短納期で生産し、高品質なJapan qualityで顧客にお届けする非価格競争力を活かした事業を中心に展開しています。日本でしかできない商品を開発し続けること、高度な生産に磨きをかけることが重要で、ここが私たちの強みでもあります。

Q2　大手合織メーカーで紡績・織布・染色に関わって来られたそうですが、生産における改善はどこまでやれるとお考えですか。

佐々木：海外で紡績・織布・染色の一貫生産会社の経営を経験しました。紡績・織布は比較的シンプルでトラブルも起きにくいのですが、染色は、加工工程自体が多様で、特殊な工程が加わることもあり複雑です。また、水の量や温度を管理しながら、薬剤の使用で化学反応も制御する必要があり、技術難度は、非常に高い。技術力が弱い海外で染色トラブルから顧客に多大な迷惑をかけ、信頼を失い、経営に瀕した経験もしました。

その点、当社の技術力は高く、難度の高い製品を安定して生産する技術力があります。それでも試作から量産までの時間的な制約から品質設計の不備で不良品の発生や、それ故の納期遅れもあり、改善の余地はまだまだあります。私は技術屋である以上、生産技術では完璧でありたいし、どこにも負けない生産技術力を追求したいと考えています。

財務ハイライト

2020年３月期業績

売 上 高	36,525百万円
営業利益	1,612百万円
経常利益	2,152百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,375百万円

2020年３月期のポイント

1. 日本でしかできない商品開発の継続。
2. 環境共生素材を軸とした先端材料分野の拡大。
3. 当社の加工技術を活かした海外向け資材用途の拡大。

まず、生産の普遍的な課題として更なる生産性向上に加えて、今後一層高まる小ロット・短納期の顧客要求に応える精度の高い生産の仕組みを追求し続ける必要があります。そのためにも、自動化設備導入やIoT、AI等の先端テクノロジーをフル活用した生産システム強化に経営資源をしっかり投入していくつもりです。

Q3　生産と販売の連携はどうあるべきでしょうか。

佐々木：生販連携は非常に重要です。これまでの経験からも生販関係が歪むと瞬く間に業績が悪化しますし、業績が悪化すると互いに責任転嫁をしやすいものです。

本来、営業は生産の実力に見合った販売と生産を安定稼働させる受注を確保する意識が必要です。生産は品質・コスト・納期遵守の改善努力を怠らず、販売活動を支える役割があります。双方が他方への影響を意識し、事業のパフォーマンスを最大化する連携が大事です。

また、事業運営は事業戦略ありきで、その意味で営業が前輪、生産が後輪の4輪駆動が基本です。「市場がこう動いているので、事業をこうしていきたい。そのために生産体制をこうしていく必要がある」との流れです。営業の事業構想力と生産の対応力が噛み合うと強くなるでしょう。

Q4　事業領域にも変化が生まれるのでしょうか。

佐々木：2018年10月に小松マテーレへと社名を変えました。新社名には、染色事業の枠を超えて「化学素材メーカー」を目指す意思が込められています。当社は早い時期から、「美・健康・快適・安全・環境」をテーマに顧客・社会・地球への貢献を謳い、事業展開を進めてきました。

すでに当社の事業領域は、ファッション、スポーツ等の衣料分野から寝装、インテリア、車輛、メディカル等の生活・産業資材分野に及び、さらに炭素繊維や超発泡セラミックス建材など環境共生素材を軸とした先端材料分野に広がっています。

私はこれらの事業を3つの事業群に整理して、戦略的な事業展開を考えています。

1つめは「高度化事業」。既存コア事業である衣料ファブリックと資材ファブリックは、商品と商流の高度化を図りながら、収益力を一層高めていきます。

2つめは「拡大拡充事業」。一部の資材事業や製品事業等の顧客・用途開拓の可能性を残している分野を深耕し、事業拡大と収益拡大を図ります。

3つめは「戦略的育成事業」。先端技術・素材をベースに新たな柱となる事業を育成します。炭素繊維複合材「カボコーマ®」は技術的課題を早期に解決し、本格事業化を加速します。また、新型コロナウイルス禍に際して、当社がいち早く開発した「ウイルスシールド®」を技術の核として、衛生・感染症対策を含めたヘルスケア分野を新たな事業の塊に育成していきます。

当社は、これまではBtoB事業が中心でしたが、新たな業態として、BtoCビジネスモデルにも積極的に取り組みます。急速に進むデジタル化の動きに呼応してＥＣ事業・ネット販売にも経営資源を投入していきます。

Q5　国内と海外、衣料と資材という区分けもあります。それらのバランスについても構想をお聞かせください。

佐々木： 繊維産業はグローバルには成長産業で、需要は主に海外で伸びますので、海外事業は重要です。また、新興国を中心に社会が豊かになり、高品質で高感度な商品を求めるアッパーミドル層も拡大しますので、当社を含めた日本の繊維産業にとってチャンスが広がります。衣料ファブリックの海外向けは既に5割を超えていますが、中期的には7割を目指したいと考えております。

　また、当社の資材ファブリックは、国内を中心にリビング・生活関連資材等で事業を拡大してきました。資材向けは先進国ほど繊維における比率が高く5割を超えます。当社の加工技術を活かした資材用途の拡大を図ります。資材用途は多岐にわたることから個社での情報収集は限界がありますので、商社や合繊メーカーと連携する形で積極的に取り組みます。

Q6　企業人としての歩みを振り返って、印象に残る思い出や信条とされる言葉があったらお聞かせください。

佐々木： 宮本武蔵の『五輪の書』に「鍛錬」という言葉が出てきます。剣豪武蔵は、「相手の動きに対して身体が自然に対処できるように日々鍛錬する」という意味ですが、私はこの言葉を「とことん悩んで考え抜くことで徐々に構想が固まり、そしてそれが確信になる」と自分流に解釈し、私自身の信条としてきました。これは私自身の経験からの境地で、これまで３～４度ありました。

　一例ですが、海外の慢性的な赤字に陥った会社の立て直しを任された時のことです。黒字化のための検討を重ねましたが、良策が見いだせない絶望感の中で、業績は日々悪化していました。周囲からは、これ以上の事業継続は無理ではないかとの意見もありましたが、苦楽を共にしてきた社員の生活を奪う事業収束は選択肢から除外していました。事業規模を維持した生き残り策はないことも明確で、何度考えても同じ結論になってしまいます。高採算のみの事業に縮小して希望退職を募ることで資金の流出を最小限にするもので勿論100%納得できるものではありませんが、繰り返すうちにこれしかないとの確信に至りました。

　後は早かった。スタッフの意見を確認し、半年で実行。一年後には単月黒字を達成できました。経営のプレッシャーは生半可なものではありません。こうしたぎりぎりの判断で責任が全うできるものと痛感しました。

　私はご縁があって当社でもう一働きさせていただきます。新型コロナウイルス禍で、新たな行動様式が求められる“ニューノーマルな時代”が到来しています。スピードと変化をモットーに、「常にワンチーム、小松マテーレ’ズ」を合言葉に、新たな価値を創造し続ける「提案型企業」たるべく、先頭に立って行動してまいります。

　株主の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

光でウイルスを酸化分解する「ウイルスシールド®」を開発

ウイルスを光の力で酸化分解し、感染能力を抑える機能素材「ウイルスシールド®」を開発しました。新型コロナウイルスが世界で猛威を振るう中、当社はマスク本体の開発を本格化、6月から洗って繰り返し使える「ダントツマスクール™」「ダントツフィットインナー™」を販売し、反響を呼んでいます。

抗ウイルス効果を実現した機能素材

新型コロナウイルスの感染拡大は、人と人の接触だけでなく、せきやくしゃみによる飛沫によっても拡散します。厚生労働省によれば、せきやくしゃみの「しぶき」は2メートルも飛ぶとされています。

当社はウイルスの活動を抑制する、安心・安全・快適な加工技術の開発を目指してきました。東芝マテリアル㈱の協力により、1年半を超える模索の結果、2月に“光”のパワーを活かした光触媒と特殊吸着剤の結合による抗ウイルス機能素材「ウイルスシールド®」の開発に至りました。

微弱な光でもウイルスを高速分解

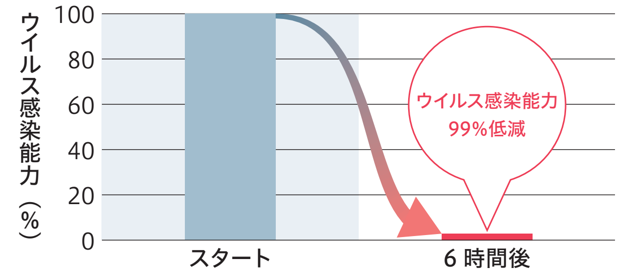
「ウイルスシールド®」は、光触媒に特殊な効果を持つ「酸化タングステン」を使用しています。一般的な光触媒に用いられる「酸化チタン」に比べると、太陽光が射さない、蛍光灯やLEDなどの室内光の下でも、ウイルスを高速分解する力があると証明されました。

「ウイルスシールド®」を多くの用途へ展開。マスクインナーとして「ダントツフィットインナー™」を製品化。

6時間で99% ウイルスの感染能力を低減

「ウイルスシールド®」は、(一財)日本繊維製品品質技術センターにおけるA香港型インフルエンザウイルスの接触試験で、6時間でウイルスの感染能力を99%低減すると評価されました。「ウイルスシールド®」に接触したウイルスは感染能力が弱まるため、その後の拡散を抑える効果が期待できます。

まずは、マスクインナーとして「ダントツフィットインナー™」を製品化。水洗いをしても10回まで抗ウイルス効果が持続するため、“洗って使える”マスクインナーは、品不足が続く不織布マスクのフィルター性能を補う役割に効果があります。



A香港型インフルエンザウイルス(H3N2)の活動抑制効果

(明るさ：1000lux－昼間の室内レベル)(一財)日本繊維製品品質技術センターによる評価結果

繰り返し使えて、いつも快適に「ダントツマスクール™」を追加発売

冷感・ムレ防止・消臭・洗濯耐久・抗ウイルス・抗菌防臭・花粉カット・UVカット――8つもの特徴を持ち、国産マスクの本命に

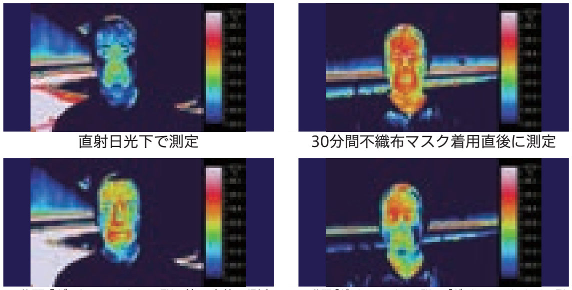
「アフターコロナ・ウィズコロナ」という言葉をご存じでしょうか。コロナを警戒しつつも、上手に付き合っていく知恵と行動が求められています。いまや散歩や買

「ダントツマスクール™」の外観：表面

い物、会合への参加、スポーツクラブの運動にもマスクは必需品となっています。

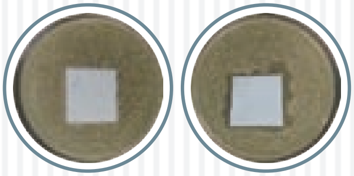
まもなく迎える夏本番。不織布マスクではムレが心配なだけでなく、使い捨てはもったいないとの声も聞かれます。

マスク着用による顔面温度変化～サーモグラフ撮影



直射日光下で測定 / 30分間不織布マスク着用直後に測定 / 30分間「ダントツマスクール™」着用直後に測定 / 30分間「ダントツマスクール™」+「ダントツフィットインナー™」

「ダントツマスクール™」は、肌に触れると涼しく感じ、ウイルスの活動を抑制し、熱がこもらずムレにくいなど、季節を選ばずさわやかで快適な「マスク内環境™」をキープします。さらに当社が開発した植物由来の機能性を持つ新素材「ベジベジ™」の抗菌防臭効果に加え、花粉防止効果、UVカット、消臭効果もあります。50回洗って繰り返し使えるため廃棄物削減につながり、環境にやさしくサスティナブルなマスクといえます。



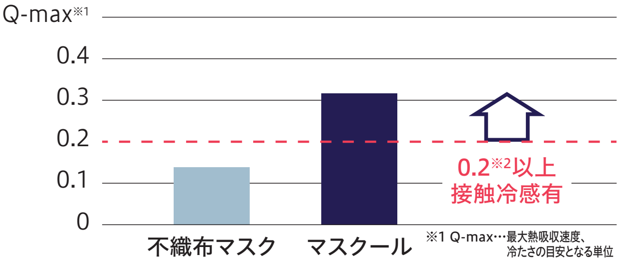
通常染色品　「ベジベジ™」

黄色ブドウ球菌に対する抗菌効果

「ダントツマスクール™」の外観：裏面・マスクインナー用ポケット付き

2つを組み合わせて“ダントツ”の効果を

「ダントツマスクール™」と「ダントツフィットインナー™」の2つを組み合わせれば、抗ウイルスのダブルブロック機能を発揮します。立体構造の「ダントツフィットインナー™」を「ダントツマスクール™」の内側ポケットに装着するとマスクと口元の間に空間ができ、通気性がアップし、爽快感がより向上します。公式オンラインストア「ユニリンク」で販売中です。ぜひ、お試しください。



※1 Q-max…最大熱吸収速度、冷たさの目安となる単位
※2 通常の接触冷感生地の目安値

【販売価格】※税抜き
・「ダントツマスクール™」(1枚) 1,500円　・「ダントツフィットインナー™」(5枚) 1,500円
・「ダントツマスクール™」(1枚) ＋「ダントツフィットインナー™」(5枚) 2,500円／セット

ヘルスケア分野へ用途展開も

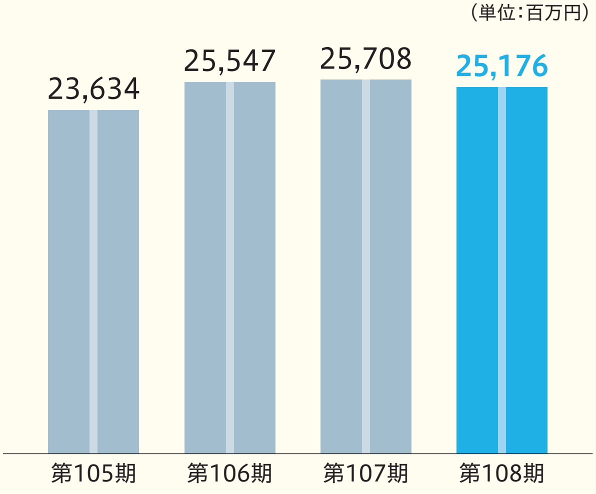
当社は、「ウイルスシールド®」の技術をシーツ、枕カバー、カーテンなどの病院介護用資材をはじめ、生活資材、車輌内装材、寝装品、インテリア関連、ユニフォーム衣料などに用途展開する計画です。初年度に10億円の販売規模を見込んでいます。

衣料ファブリック部門

売上高 25,176百万円（前期比 2.1%減）

衣料ファブリック部門は、国内外において高感性・高機能素材の開発と市場導入を進めてまいりました。なかでも欧州向けのラグジュアリーファッション、北米向けのスポーツ分野及び、中東向けの民族衣装については堅調に推移し増収となりました。

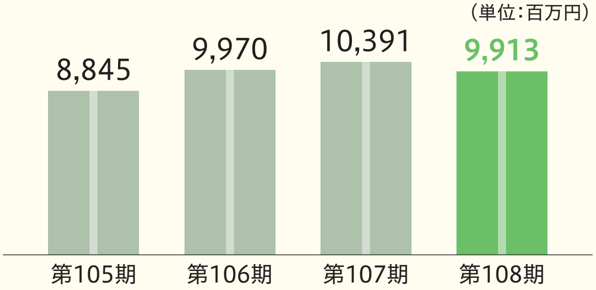
しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大を要因・契機として、ファッション分野においては、国内は総じて減収となり、海外では欧州のアッパーミドル向けが減収となりました。また、スポーツ分野においては特に欧州向けが減収となったことから、当部門全体は減収となりました。



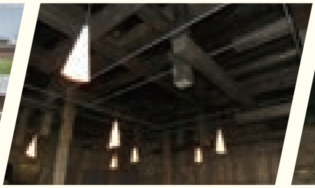
資材ファブリック部門

売上高 **9,913百万円**

（前期比 4.6%減）



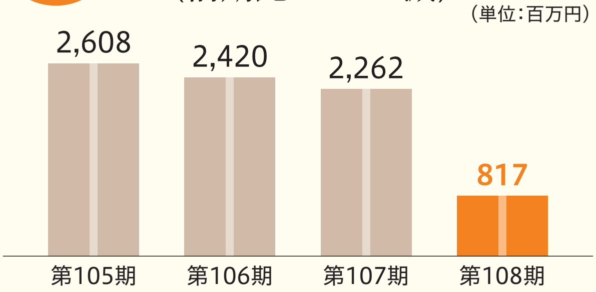
資材ファブリック部門は、医療・福祉のメディカル分野及び、建材については概ね計画通りに推移しました。しかしながら、リビング分野については、カーテン等の定番品をはじめとする不採算商品からの撤退を図ったことにより減収、さらに生活関連資材についても消費の落ち込みにより減収となったため、当部門全体では減収となりました。



製品部門

売上高 **817百万円**

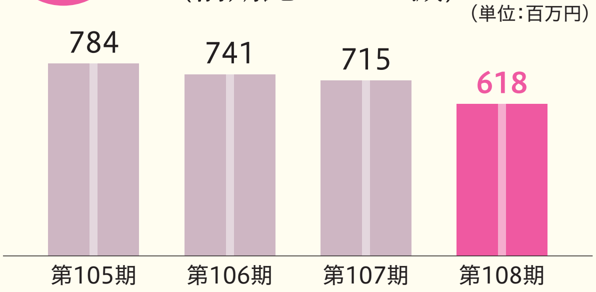
（前期比 63.9%減）



物流物販事業

売上高 **618百万円**

（前期比 13.5%減）

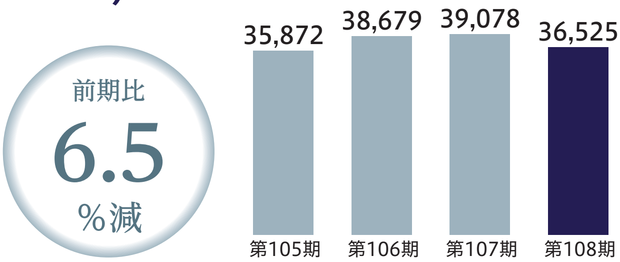


財務ハイライト

売上高

36,525百万円

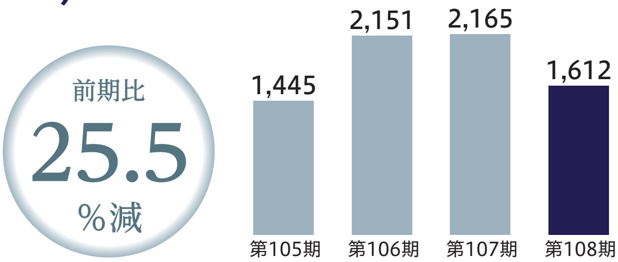
（単位：百万円）



営業利益

1,612百万円

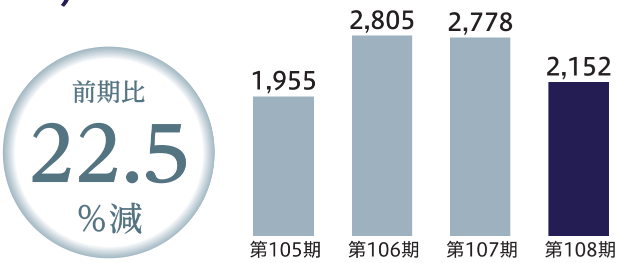
（単位：百万円）



経常利益

2,152百万円

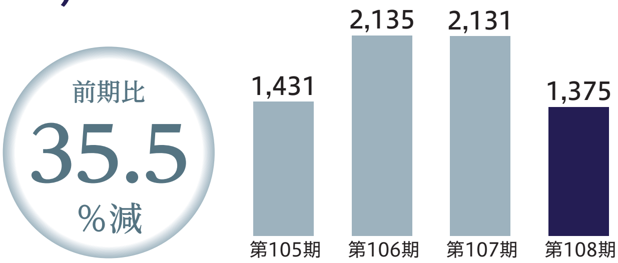
（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益

1,375百万円

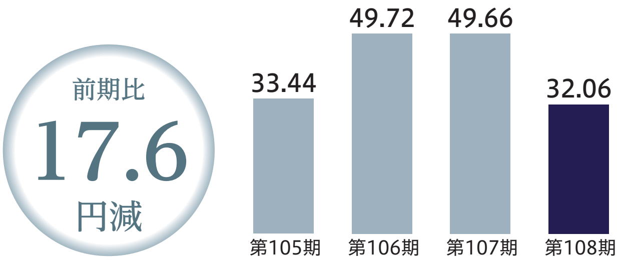
（単位：百万円）



1株当たり当期純利益

32.06円

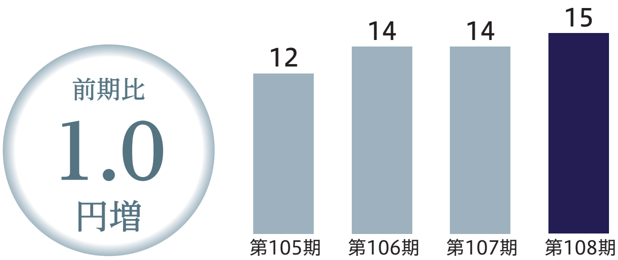
（単位：円）



1株当たり年間配当金

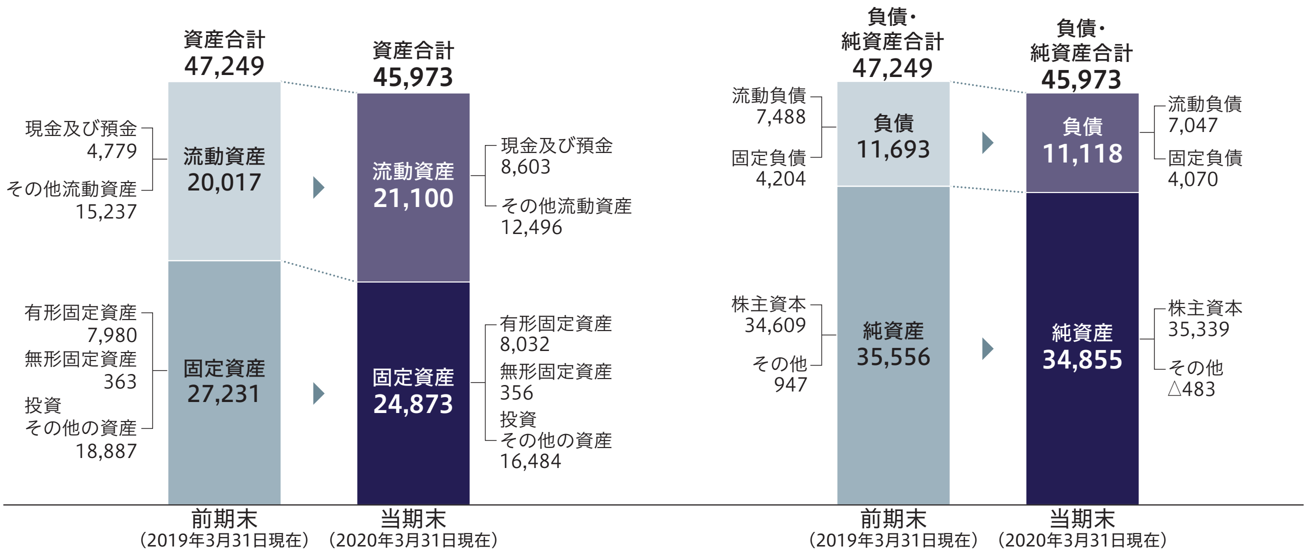
15円

（単位：円）

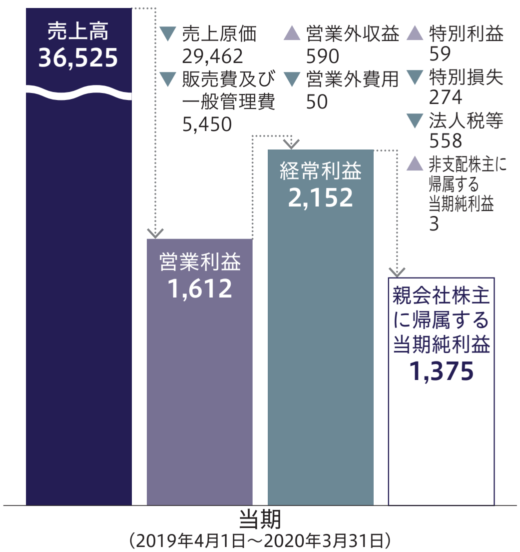


連結決算概要

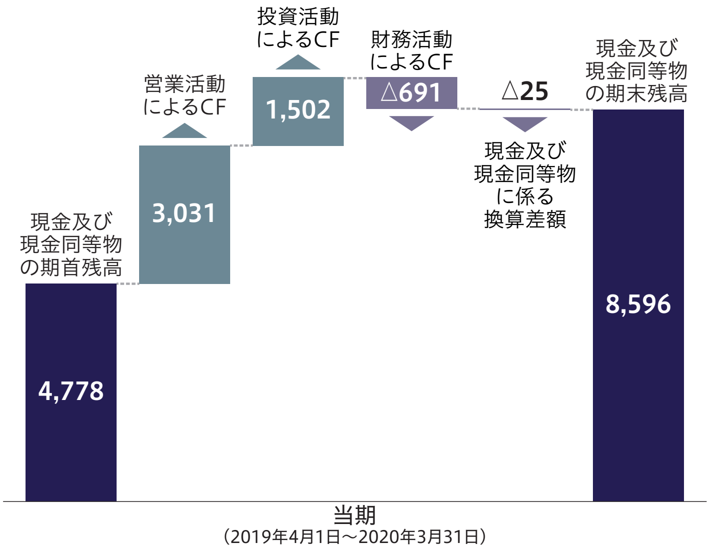
連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



株式情報

発行済株式総数	株主数
43,140,999株	5,762名

所有者別分布状況

個人その他	金融機関	その他の法人	外国法人等
8,374千株	13,327千株	13,688千株	7,512千株
(19.41%)	(30.89%)	(31.72%)	(17.41%)

証券会社 116千株(0.26%)

自己株式 121千株(0.28%)

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東レ株式会社	3,749	8.71
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LTD.	3,389	7.87
株式会社北國銀行	2,113	4.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,566	3.64
小松マテーレ松栄会	1,514	3.52
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SPECIAL OMNIBUS SECS LENDING ACCOUNT	1,284	2.98
日本生命保険相互会社	1,284	2.98
株式会社北陸銀行	1,263	2.93
三井住友信託銀行株式会社	1,230	2.85
株式会社クラレ	1,090	2.53

※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当　3月31日 中間配当　9月30日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	0120-782-031
URL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
1単元の株式の数	100株
公告の方法	電子公告(当社ウェブサイトに掲載) https://www.komatsumatere.co.jp/ir/investor/ ※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行ないます。
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について
株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

会社情報

役員　2020年6月26日現在

代表取締役会長	中山　賢一	取締役	向　潤一郎	監査役	橋爪　諭
代表取締役社長	佐々木久衛	取締役	中村　重之	監査役	根上　健正
代表取締役副社長	髙木　泰治	取締役	野路　國夫	監査役	坂下　清司
専務取締役	中山　大輔	取締役	鳥越　和峰		
常務取締役	松尾　千洋				
常務取締役	小川　直人				

グループ会社

小松精練(蘇州)有限公司	中国・江蘇省蘇州市
株式会社コマクソン	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
インターリンク金沢株式会社	石川県金沢市
株式会社セイホウ	栃木県足利市

会社の概況

商号	小松マテーレ株式会社
設立年月日	1943年10月8日
資本金	46億8,042万円
本社	〒929-0124 石川県能美市浜町ヌ167番地
本社工場	同上
美川工場	石川県白山市鹿島町1号7番地1
大阪営業所	大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
東京営業所	東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トレランス銀座ビルディング8階)
北陸営業所	石川県能美市浜町ヌ167番地 (小松マテーレ株式会社 本社2階)
上海事務所	上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)

小松マテーレ株式会社
https://www.komatsumatere.co.jp/

VEGETABLE OIL INK